

Introduction of works

dice 126

ダイス イチ ニ ロク

【素 材】

左上：茶水晶
左下：青水晶
右上：水 晶
右下：紅水晶
金具：K18

※ 青水晶のみ人工石

【サイズ】

縦15mm×横15mm×高15mm

依 田 貴 石 w e b サ イ ト

<http://www.yodakiseki.com/>

*この他の作品は依田貴石の商品紹介
サイトで見ることが出来ます。



【dice 126】

依 田 雅 史

天然水晶を原石から加工。透明度が高い部分を厳選して立方体に削り出し、126面ものカットを施した逸品。

より多くのカット面をつけることで光が中心に集まりキラキラと輝く。

透明な水山をイメージしたという依田は「角に緩やかな傾斜をつけることで水が溶け出している様子を表現しました」と語る。

陽の光を受けて煌めく様は手摺りならではの。今までにない、より洗練された作品となった。

手摺りによる研磨加工はもちろん、全ての工程を手作業で行っているため機械では出せない、ゆらぎのある瞬きが特徴。

同じ物が二つとない芸術品のような仕上がりである。



山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階

<http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/>

開館時間：10:00~17:30(最終入館17:00)

休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、
その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料：無料

駐車場：92台 山梨県防災新館地下有料駐車場(来館者は1時間無料)

水晶・貴石研磨職人

依田 雅史

craftsman jewelry file.10
masashi yoda

craftsman jewelry

Vol. 10

2017年5月発行

2017 May

山梨ジュエリーミュージアム発行



江戸時代から続く 伝統の技法を受け継ぐ

依田貴石は、祖父が創業して今年で70年。石取りから研磨加工まで全ての工程を手作業で行い製品を作っている会社です。

自宅の裏が工場だったので、私は小さい頃から父の仕事を見て育ち、遊び場は工場です。仕事道具や石がおもちゃでした。

高校生になると夏休みで工場が忙しい時には簡単な作業を手伝うようになり、「研磨職人に若手がいない」という事を聞き、卒業後から父の元で技術を学び始めました。手摺りという江戸時代から伝わる伝統的な研磨技術で、まず粗摺りといって形を作るところから修業はスタート。滴、オーバル、ハートなどの形に石を削って、父に合格が貰えるまで、削り続ける毎日でした。

126面のキューブに 込めた思い

今年で13年目になり一通りの作業は出来るようになりましたが、まだまだ一人前ではないし、覚える事はたくさんあります。

石は天然の物なので同じ色や模様はひとつもない。目で見てバランスを取るので仕上がりは少しずつ違うし、そこが手摺りの魅力でもあります。機械だと寸分違わず同じ形が出来るけど、手摺りだと同じものは二つと出来ないんです。だから、この仕事には修行の果てがない、芸術家に近い職業ではないかと思えます。

私の作品に天然の水晶を原石からカットして手摺りで仕上げた126面体のキューブがあります。透明な氷山をイメージしていて、角が少し溶けているような感じを表現するために、たくさんの面を作りました。そうすることで光が中心に集まってキレイなんじゃないかと思って、磨いたらどうなるんだろうという遊び心が

“手摺り”にこだわり、
原石に輝きという命を吹き込む匠。

ej

craftsman jewelry

vol.10

きっかけでした。でも作り始めるとなかなか思った通りにはいかなくて苦労しました。最初に挑戦したのは2012年でしたがイメージした物が出来なくて、1年掛けてやっと最初の1つが完成。3年程作り続けてやっと思い通りに出来るようになってきたところです。今でも最終仕上げの段階で、普通の商品は20分程度で出来るところを、このキューブは2時間程掛けて丁寧に仕上げています。

手摺りだと、ゆらぎのある形で出てくる光にも温かみを感じられます。身に付けて動く度に違う輝きが出るんです。もしかしたら買う人は気付かないかもしれないけど自己満足かもしれないですね。でも私にとっては技術が中心にあり、その技術を最大限活かした作品づくりがしたいんです。

実は、この仕事を始める前は人一倍不器用でした。でも、ひたすら練習して克服しました。打ち込める気持ちだけはあってやめる事なく来られたので、その部分は才能かとは思いますが。日々の仕事の積み重ねで、去年できなかった事が今年できるようになった。そんな小さな積み重ねで今日があります。

父に近づき、 後継者を育てる

私の研磨職人としての目標は、作品を作るよりも職人を育てて技術を後世に残していく事。父から受け継いだ昔ながらの伝統的な技法を守っていくことなんです。子供の頃から父の仕事に対する姿、一つひとつの石と真剣に向き合う姿を見てきたからかもしれません。

手摺りの技術は手の感覚で覚えるもので、言葉で言っても、物を見せてもなかなか伝わらない。普通の仕事とは違って自分で掴むしかないんです。だから、せめて5年後には技術者として、お客様の希望に合わせて受注から納品まで一人で対応できるような技術を掴んでいきたいですね。そして50~60代になった時に弟子を取れるように日々技を極めていきたいです。生涯現役の仕事ですから先は長いですね。

私にとっては技術が中心にあり、その技術を最大限活かした作品づくりがしたいんです。



依田 雅史(よだ まさし) 32歳
山梨県(知事認定)宝石加工
ジュエリーマスター
水晶・貴石研磨職人
依田貴石
山梨県甲府市里吉4-15-22
Tel:055-235-4608